

# 『自分・友達・地域を「認め合う子」を目指して』

## 藤枝市立朝比奈第一小学校

### 1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	なかよし班 顔合わせ会 春の遠足（1年生となかよくなる会） ◎運動タイム（通年） ◎なかよし掃除（通年）	・自己紹介・全校遊び ・学級の実態に応じた人間関係づくりプログラムの実施（授業で）	【年度初め職員会議】 ピア・サポート活動について共通理解  朝比奈っ子を語る会
5月	全校運動会集会 なかよしリレー練習	・6年生主導で応援やなかよし班競技の練習をする。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                     共感的な児童理解 「全職員で全児童を」をモットーに、子どもたちと向き合っていく。                 </div>
6月	運動会 ペア読書 なかよし遊び① 自然教室（5年）	☆運動会で見つけた「認め合いの花」  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                     &lt;学級で通年&gt; ・いいところ見つけ学級内で積極的に認め合い、自己肯定感を高める。                 </div>	
7月	なかよし遊び②		授業を見合う旬間
8月			生活アンケート実施
9月	なかよし遊び③		【夏の校内研修】
10月	なかよし遊び④ 全校音楽会集会 親善音楽会（3・4年） 陸上大会（6年）	☆陸上大会・親善音楽会で見つけた「認め合いの花」	生活アンケート実施
11月	なかよし遊び⑤ 校内音楽会 修学旅行（6年）	☆音楽会で見つけた「認め合いの花」	子どもを語る会
12月	あさひな学習発表会 チャレンジ集会	・高学年が、低学年に長縄のコツを教える。	生活アンケート実施 子どもを語る会
1月	なかよし遊び⑥		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                     ・子どもの様子の情報交換 ・行事などの振り返りで子どものよさを見つけ、価値づける。                 </div>
2月	なかよし遊び⑦		
3月	ありがとうの会 卒業式	☆6年生に、なかよし班のみんなから感謝の気持ちを伝えよう。	

重点目標「認め合う子」を目指した指導

「認め合いの花」友達のよさを放送で紹介・掲示で見える化／自分のよさに気付く

日々の授業実践の中で「話す」「聴く」「や、温かい言葉遣いの指導

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### (1) なかよし班活動でのかかわり作り

＜提言 1, 5, 6＞

本校では、全校49人を4つの班に分けた「なかよし班」で様々な活動を行っている。活動を通して、学年の枠を越えた子ども同士の温かな関係づくりを目指している。

#### ①なかよし掃除

毎週水曜日の掃除の時間に、低学年児童と高学年児童がチームを組み、上級生が掃除のこつを教えたり、しっかりやるよう声かけをしたりしながら一緒に掃除を行っている。1学期のうちは、「ちゃんとやって。」「遊ばないで。」のような声かけが多く、高学年の児童たちは苦勞していたが、次第に「ここからここまで掃いてね。」のような、わかりやすく優しい声かけができるようになり、小さな子どもとの温かな関わり方を学ぶことができた。

#### ②なかよしリレー

運動会の種目の1つに、班対抗の二人三脚リレーがある。異学年でペアを組むことが多く、6年生以外の児童も下級生をリードする経験を積む機会になっている。上級生が下級生の教室に行って練習しようとして声を掛ける姿や、上手に走れないときに「頑張ろう。」と励まし合いながら練習を続ける様子が見られた。本番は、全ての班が頑張っている仲間を温かく応援することができた。



#### ③なかよし遊び

毎月1回程度、ロング昼休みを活用して昼休みになかよし班で遊ぶ活動を行っている。高学年だけでなく、全ての学年が1回は遊びの企画と進行を経験できるように計画されている。普段はお兄さん、お姉さんに付いて回ることがほとんどである1・2年生も、担当の日は前に出て班の仲間を集めたり、一生懸命考えた遊びのルールを説明したりしていた。

担当学年は決まっているが、やはり高学年の児童は常に全体をよく見る習慣が付いてきている。低学年が上手に進行できるようにサポートしたり、遊びが楽しくなるような声かけをしたりして、班の全員が楽しめるよう考えて行動できるようになった。



### (2) 「認め合いの花」の活用

＜提言 4, 5, 6, 7＞

児童が学校生活の中で見つけた、友達のよいところや頑張りをカードに書いて伝え合う活動に、何年も継続して取り組んでいる。児童たちが見つけた花は、放送で紹介され、毎朝登校してきたときに通る廊下にある木に掲示されていく。本年度からは、お互いのよさを認め合うための活動であることを更に意識できるよう、名称を「ピアピアの花」から「認め合いの花」に変更した。年度当初よりも「認め合う」という言葉が生活の様々な場面で聞かれるようになり、児童たちの中に意識が浸透してきたように感じている。

この活動は、児童会が中心となって行っている。運動会や音楽会などの大きな行事や、なかよし掃除などのなかよし班活動に焦点を当てて全校にカードを配布し、認め合う機会を設定することで、1年間を通して花を集め続けることができた。また、校内音楽会の前後は、音楽会実行委員が中心となって「認め合いの花スペシャルバージョン」を配布し、意欲的に練習の頑張りを認め合うことができた。



### (3) 行事でのかかわり作り・認め合い

#### ①チャレンジ集会

12月に、各学級で8の字跳びに取り組んだ。記録だけでなく、学級の絆を深めることも大切な目標として設定し、休み時間や朝の時間を利用して練習に取り組んだ。なかなか記録が伸びなかったり、上手に跳べない子がいたり各学級で壁に当たることがあったが、「ドンマイ」「頑張ろう」と励まし合いながら練習をする姿が多く見られた。

また、学級内だけでなく学年間の交流もあった。上級生は、自分たちの練習が終わると下級生の練習に合流し、上手に跳ぶコツを教えたり、励ましたりしていた。たくさん励まされた下級生は嬉しくなり、練習に更に意欲的に取り組むことができた。また、下級生は上手に跳ぶ上級生の姿を見て憧れを抱き、来年はあんな風に跳びたいと慕っていた。

#### ②運動会

前述のなかよしリレーをはじめ、全校演技の龍勢ソーランや低中高の学年部で行う種目、学年ごとの徒競走なども行っている。龍勢ソーランは、毎朝上級生が下級生の教室に行き、一緒に踊りながら教えた。学年部種目は、なかよしリレーと同じく、上級生が下級生に声を掛け、協力して練習に取り組むことができた。また、休み時間に徒競走の練習を行う児童たちは、自主的にプレレースを行ったり、走り方をアドバイスし合ったりして、お互い高め合うことができた。当日は、自分たちの競技に全力で取り組むだけでなく、学年の枠を越えて自分たちの団の仲間を応援し、仲間の頑張りを認めることができた。

#### ③校内音楽会・親善音楽会

本校では、校内音楽会の発表や親善音楽会への参加を2学年合同で行っている。2学年で一緒に練習をし、お互いにアドバイスをし合ったり、音を合わせたりして演奏を作り上げていくことができた。また、上手に演奏できない友達に得意な子たちが優しく教えたり、できるようになるまで周りのみんなが絶えず励まし続けたりしたことで、全員が達成感を得られる行事になった。

3・4年生が学校の代表として参加する親善音楽会は、4年生が3年生をリードし、リ

ーダーシップを身につける場にもなった。

### 3 本年度の成果と課題

#### <成果>

○なかよし班活動を通して、上級生は下級生との上手な関わり方を身につけることができた。特にリーダーとなる6年生は、下級生同士が活動の中でもめめているときに間に入って仲裁をしたり、落ち込んでしまった子を温かく励ましたりする経験を積む中で、ピア・サポーターとしての技能を次第に身につけることができた。

○様々な場面で学年の枠を越えた活動を行ったことで、同じクラスだけでなく、他の学年にも遊んだり相談したりできる仲間を持つことができた児童が多い。これらの活動が、小規模校で狭くなりがちな人間関係を広めるいい機会になっていると感じた。

○全校や複数学年での活動を行うことで、児童同士だけでなく職員も学年の枠を越えて全校の児童とかかわることができた。多くの目で児童を見ることで、それぞれの児童のよさや変化を数多く見つけることができ、全職員で全児童の理解を深めたり、協力して児童の指導にあたったりすることができた。

#### <課題>

●毎年行っている「認め合いの花」は、習慣となっているよさがある一方でマンネリ化が否めない。年度初めはたくさんの花が紹介されていたが、配布されたもの以外に、自発的にカードを書く児童が少なくなってきた。児童たちが意識を持ち続けるような手立てを考えていかなければいけない。また、認め合う内容のレベルアップも図りたい。

### 4 来年度に向けて

・「認め合いの花」のような年間を通して行うピア・サポート活動に対する児童の意識が継続し、どの時期も積極的に活動が展開されるよう、年度を見通した計画を立てたり手立てを講じたりしていきたい。

・縦割り活動を多く取り入れることで学年間でのピア・サポートは活発に行われているが、学級内でのピア・サポートはまだまだな部分もある。今まで通りの活動を継続しつつ、クラス内でピア・サポートを更に広めるための手立てを考えていきたい。